

脚本家大森美香さん講演会

2024年11月30日
短大北校舎N302教室

「青山学院女子短期大学が教えてくれたこと」

当初2020年10月に開催される「青山学院女子短期大学70年の歩みを感謝する集い」において同窓会の企画で行われる予定がコロナで中止となり、4年の月日を経てようやく実現の運びとなりました。当日は立ち見もできるほどの大盛況で230名の参加者数を記録しました。



「青山学院女子短期大学が教えてくれたこと」と題した今回の講演会は、1992年芸術学科を卒業してから脚本家大森美香誕生までのストーリーを、エピソードを交え語られました。

「短大の2年間で今の自分をつくった」と明言され、学生時代1990-1992年当時はバブル転換期、まだまだ男性優位な社会において、短大の女子だけの世界はバイパスがなくとても楽しいと感じたこと。その中で「文章を書く楽しみ」を見出すきっかけになったのは、卒論である美術史の論文

を書くために短大や大学図書館に通い、資料を探して歴史を調べるのが楽しかったこと。

卒業後は放送局の事務として就職したが、さらなるチャレンジ精神と強い意志でAD

(アシスタントディレクター)やAP(アシスタントプロデューサー)等の仕事を経験しながら脚本家として現在の地位に至ったことなど随所で会場の共感をさそいながらお話が進みました。会場スクリーンに紹介された脚本タイトルは誰もが知っている人気ドラマばかりであり、これから放送予定のドラマや新作、続編への意気込みも伺えました。



現在、脚本家のみならず監督や小説家など幅広い分野でご活躍されています。幾度も発言の中に出てきた「仕事に対する「楽しい」という思いが、日々の地道で大変なことにも情熱を持ち続けられる所以と感じました。

講演会参加者一同、なつかしい校舎の中で充実感を覚え、元気をもらえたひとときでした。

本部・関西支部共催
宝塚観劇会2024年12月20日
宝塚大劇場

12月20日13時、全国から82名の同窓生が宝塚大劇場に集い観劇会の幕が上がりました。1年以上前から本部、関西支部で打ち合わせを重ね、紆余曲折あったものの、皆さんの笑顔を見るのができて、やって良かった!との思いで一杯でした。

当初は、2025年3月の星組を予定していました。ところが7月突如劇団HPで、舞台設備工事のため2月は休演との発表、星組公演が4月から5月にずれてしまったのです。団体申し込みの時点では、まだ演目詳細もわかりません。さて、皆さんに喜んでいただけ、50周年行事として、また会報秋号で募集するには...と考えた結果、青山学院高等部出身、風間柚乃さん活躍中の月組!12月20日に決定しました。第1希望S席で申し込んだのですが、1週間後、劇団からの回答はすべてA席でした。当日の劇場の様子を見ると、その日は大きな団体がいくつも重なっていたようです。

10月の募集開始と同時に北海道から関東、東海、関西、四国、九州まで、年代もさまざまな同窓生が申し込んでくださいました。年末という時期のためか、少し出足が遅かったのですが、同窓会HPでの再募集を経て82名が集まりました。

12月10日朝、劇場カウンターで発券、団体はチケットを受け取って初めて座席がわかります。慣れない作業に何度も確認して、全国へ発送した番号追跡がすべて「お届け済み」になったとき、やっと肩の荷が下りた気がしました。

観劇会当日はロビーでクリスマススイベントも開催中で大劇場全体が華やかだ空気に包まれていました。1部は展開の早い西部劇、2部では出演者が客席に降りて来る演出があり、間近に見るタカラジェンヌと一緒にショーに参加して皆さんの熱気も最高潮、夢の中にあるようなフィナーレで幕を閉じました。

今回は終演後に同窓生の皆さんの交流の場を設けられなかったこと、また同窓会会長、副会長のご紹介ができなかったこと、お詫び申し上げます。



大劇場ロビーにて

さあ、会報で見つけた少し遠くの同窓会参加の旅へ、あなたも出かけてみませんか?

宝塚観劇会責任者

関西支部支部長

60 J 岡 雅子(廣澤)